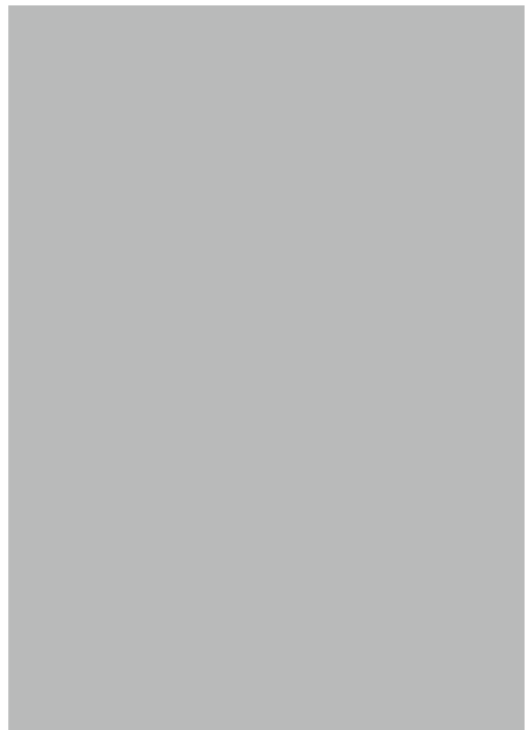




2



3



1

橋本平八と北園克衛展 異色の芸術家兄弟

橋本平八（1897～1935）と北園克衛（本名〃橋本健吉、1902～1978）は、現在の三重県伊勢市朝熊町に生まれ、ともに芸術家として活躍した兄弟です。

橋本平八は、1919（大正8）年に上京して佐藤朝山に入門、1922（大正11）年の第九回日本美術院展で《猫》が入選して、彫刻家としてデビューします。以後日本美術院展に出品し、1926（大正15）年に帰郷してからは伊勢を拠点に制作活動を行いました。橋本平八は古代芸術と自然の力を強く意識するとともに、東西の宗教や哲学、芸術研究を通じて確立した独自の彫刻思想に基づく木彫を残しました。

一方、弟の北園克衛は兄に続いて上京し、未だ来派、立体派、表現派、ダダなどから影響を受け、昭和初期から前衛詩の分野で活動を開始します。1930年代からは海外の詩人たちとも交流し、1935（昭和10）年に結成したVOUクラブを拠点に様々な活動を展開します。第二次大戦後の北園は、写真によるグラフィック・ポエム（造型詩）の制作、ブックデザインなどをはじめとし、詩作と造形双方の分野で幅広く活動

25 HILLWIND

三重県立美術館 ニュース

夏が来れば思い出すのは〈大なる正午〉というフレーズです。荒巻義雄の処女作のタイトルで、この特異な短編はニーチェに想を得たといえます。実際後者の『ツァラトゥストラはかく語りき』では、第一部末尾、第四部末尾など数カ所に件の語が見受けられます。ニーチェの預言者の名前は古代イランのザラスシュトラから借りたものですが、ニーチェとイランの祭司は思想的にはほぼ正反対と見なしてよいでしょう。ただ〈大なる正午〉というイメージは、氷上英廣が記したよにイランの神話を思い起こさせます。曰く、善神アフラ・マズダーは太陽を天の中央に固定し、地上を照らすものとして創造したが、邪神アンラ・マンユの侵攻の結果、太陽は運行するようになった。しかし世界の終末、アンラ・マンユが封印されたあかつきには、太陽は再び中天に静止し、世界は永遠に正午に留まるだろうというのです。もとより古代イランの人々、ニーチェ、荒巻それぞれのイメージはまったく異なるものでしょう。ともあれ今年も真夏がやってくるのでした。(lk)

展覧会スケジュール

- 企画展示
 - 橋本平八と北園克衛展**
2010年8月7日[土]～10月11日[月・祝]
観覧料：一般900(700)円 高大生700(500)円
小中生400(300)円
()内は20名以上の団体料金および前売料金
 - シンポジウム「橋本平八と北園克衛を語る」
日 時：8月8日[日] 午後1時30分から
会 場：三重県立美術館 講堂
講 師：酒井忠康氏(世田谷美術館長)、ジョン・ソルト氏(ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所研究員)、平出隆氏(詩人、多摩美術大学教授)／参加無料
 - 担当学芸員によるギャラリートーク
日 時：8月21日[土]、9月11日[土]、10月2日[土]
いずれも午後2時から
聴講無料、ただし観覧券が必要です。
 - 「生誕地で兄弟を偲ぶ」
(兄弟の生誕地で、二人と朝熊との関係を紹介します。)
日 時：9月25日[土] 午後1時40分から
会 場：朝熊ふれあい会館(伊勢市朝熊町1433、近鉄朝熊駅から徒歩5分)
講 師：石井昭郎氏(郷土史家)、伊藤由美子氏・佐藤太亮氏(劇団伊勢)、渡辺正也氏(詩人)／参加無料
会場に駐車場はありません。ご来場は公共交通機関をご利用ください。詳細は美術館ホームページをご覧ください。

- 特集展示：戸谷成雄
2010年8月7日[土]～10月11日[月・祝]
会 場：柳原義達記念館 B室
常設展示の観覧券でご覧いただけます。

- 愛知・岐阜・三重 三県立美術館協同企画展
ひろがるアート
2010年10月23日[土]～12月19日[日]
観覧料：一般800(600)円 高大生500(400)円
小中生400(300)円
()内は20名以上の団体料金および前売料金

- 常設展示
 - 美術館のコレクション
【第II期】2010年6月29日[火]～9月26日[日]
【第III期】2010年9月28日[火]～12月26日[日]
 - 柳原義達記念館 柳原義達の芸術
【第II期】2010年6月29日[火]～9月26日[日]
【第III期】2010年9月28日[火]～12月26日[日]

- メールマガジン 購読料無料
三重県立美術館の最新情報をみなさんのパソコン、携帯電話へお届けします。詳しくは、美術館ホームページをご覧ください。

三重県立美術館 〒514-0007 津市大谷町11
Tel:総務課 059-227-2100 学芸普及課 059-227-2220 Fax:059-223-0570 <http://www.pref.mie.jp/bijutsu/hp/>

三重県立美術館ニュース「HILL WIND」No.25
■発行日：2010年7月23日(禁・無断転載) ■企画・編集・発行：三重県立美術館 ■原稿末尾のイニシャルについては以下のとおり：井上隆邦(It) 毛利伊知郎(Mi) 伊藤亮子(Ir) 石崎勝基(Ik) 田中善明(Ty) 道田美貴(Mm) 生田ゆき(Iy) 原舞子(Hm) ■表紙の作品：橋本平八《花園に遊ぶ天女》(部分)1930年 東京藝術大学大学美術館蔵、北園克衛《VOU19、20》(部分)1937年 三重県立美術館蔵 ■デザイン：豊永政史

利用のご案内

- 開館時間
午前9時30分午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日
月曜日(ただし、祝日休日は開館)、9月21日(火)、10月12日(火)、2011年1月11日(火)、3月22日(火)
メンテナンス休館：12月24日(金)
- 観覧料
【常設展示の場合】
〈美術館のコレクション+柳原義達記念館〉
一 般 300(240)円
高・大生 200(160)円
65歳以上の方、小・中 生 無料 ()内は20人以上の団体料金
【企画展示の場合】
その都度定めます。
ただし、学校の教育活動として小・中・高・特別支援学校等の団体が観覧する場合、身体障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名が観覧する場合は無料。
- 交 通
津駅(近鉄・JR線)西口より徒歩約10分または、循環津駅西口(つつしが丘、むつみが丘経由)行き、総合文化センター行き2分、美術館前下車 ※できる限り公共交通機関をご利用ください。



橋本平八
1 《幼児表情》1931年 東京国立近代美術館蔵
2 《石に就て》1928年 個人蔵
3 《猫A》1922年 三重県立美術館蔵

北園克衛
4 《『机』9-7》1958年 ジョン・ソルト コレクション
5 《スクラップブック》1925年頃 ジョン・ソルト コレクション
6 《スクラップブック》1925年頃 ジョン・ソルト コレクション



北園は、生前に「私に芸術を吹きこんだのはこの兄であった」(「私の心の原風景としての朝熊村」1973年)と述べたことがあります。二人の活動は一見対照的ですが、そのユニークな芸術世界の形成には兄弟の交流と出身地伊勢市朝熊の風土が大きな役割を果たしています。展覧会では、橋本平八と北園克衛の全体像とともに、この芸術家兄弟がどのようにして各人の芸術世界を形成したかを紹介します。近年所在が確認された橋本平八の新資料や日本初公開のジョン・ソルト氏所蔵の北園克衛コレクションなどを通じて、この兄弟の才気あふれる世界をお楽しみ下さい。(Mi)

1923-24年頃の兄弟

三重県立美術館にしては大胆な展覧会——そのような声が多く届きました。それもそのはず、30歳若手作家のワンマンショーを、しかも春の展覧会シーズンに行うのは当館始まって以来のことでした。

開催が決定し美術館スタッフとの初顔合わせとなったのがオープン8カ月前。草履で登場した彼は、初めての大規模模展に戸惑いながら、何度も展示室の中をベタベタと歩きまわり構想を練っていました。そして、それからというもの、彼は展示室の大きさに合わせるかのように大変な勢いで新作に取り組みました。



幸運なことに、兄夫婦に赤ちゃんが産まれ、被写体としてようやく参加できる時期になり、かたや全国から応募のあった家族のもとへ訪れ「なりきり写真」を創作する《みんな家族シリーズ》がまとまった点数になりました。そして、彼は展



覧会準備期間中当館で開催していた「大橋歩展」「子どもアート3みえ」展に刺激を受けたのか、写真以外のさまざまな仕掛けをも考案しました。

Rickと名付けられた巨大マスコット人形、三重県を模したステージ「MIE STAR BOWL」、津の風景に囲まれた黄色いライトハウス内での写真展示、地元特産物と提携したオリジナルグッズの販売等々…。結果としてさまざまな人が展覧会準備に携わり、それぞれが能力以上の要求に答えるかたちとなりました。

さらに、期間中数多くのイベントを開催したことも特筆すべきところ。中でも、歌謡劇団「大正浪漫一座」の公演は、ベテラン役者陣に浅田さんも加わり、会場が一体となって歌や踊りが展開されました。

1 会場写真

2 大正浪漫一座公演

財界等で活躍しながら、陶芸、書画、建築、写真資料など、多方面で芸術的才能を発揮した半泥子の全貌に迫る【川喜田半泥子のすべて】展は、多治見、東京、横浜、萩を巡回、各地で好評を博し、最終会場の三重県立美術館で開催されました（図1）。

三重県津市には、半泥子が昭和21年に創設、現在も作陶が続けられている広永陶苑や、半泥子が眠る玉保院納所道場等、半泥子ゆかりの場所があります。展覧会鑑賞後に、これらの地を訪れ、あるいは半泥子考案といわれる「ブラックカレー」や、



半泥子が揮毫した看板を掲げる半泥子鼎頂の料亭で食事を楽しみ、展覧会では紹介しきれなかった半泥子の世界を探索された方も少なくないようです。さらに、昭和5年、半泥子が私財を投じて創設した財団法人石水会館（公益移行認定を受け、「公益財団法人 石水博物館」に名称変更）を母体とする石水博物館では、



関連企画として「川喜田半泥子交遊録―祖母・師・友―」（8月8日まで）を開催、半泥子の幅広い「交遊」関係を示す興味深い資料が多数紹介されました。2つの企画展をあわせてご覧いただくことで、より深く半泥子の世界を体感していただけではないかと思えます。

ところで、来年、新石水博物館が誕生することをご存じでしょうか（図2）。川喜田家伝来の収蔵品とともに半泥子作品を常設、1階展示室では企画展も開催する予定です。先述の半泥子ゆかりの地に、緑に囲まれた魅力的な博物館が加わり、この地では、「川喜田半泥子のすべて」展終了後も、さらに強力に半泥子の魅力が発信され続けることでしょう。半泥子の自邸と窯があった千歳山で半泥子の世界に没入、という贅沢な体験ができる日も、そう遠くはありません。（Mie）

1 川喜田半泥子のすべて展会場風景
2 緑に囲まれた千歳山の新石水博物館。2階には半泥子設計の山里茶席を模した展示コーナーもある。

海外研修派遣報告

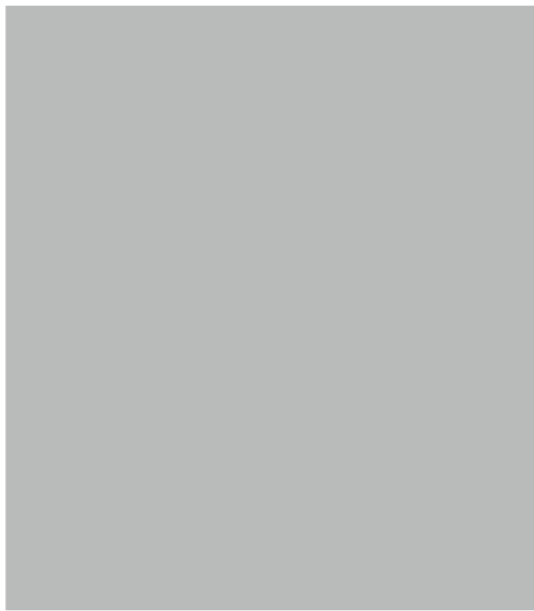


美術館連絡協議会より海外研修の機会をいただき、2009年11月から12月にかけての約1ヶ月間をヨーロッパで過ごしました。研修目的は、三重県津市出身で現在はドイツを拠点に活動する作家、イケムラレイコさんの個展開催に向けての作品調査です。

イケムラさんは1980年代前半からヨーロッパで作家活動を開始し、現在もドイツを中心に作品を制作、発表してい

ます。彼女の初期作品は、そのほとんどがドイツやスイスの美術館および作家のアトリエに保管されているので、今回はそうした初期作品の調査を中心に行いました。

滞在中、最も多くの時間を過ごしたのはケルンとベルリンにあるイケムラさんのアトリエです。最初期から現在制作途中の作品まで、目にしたのは数百点。中でも印象深いのは、膨大な数のドロ잉です。一枚一枚めくりながら、そのときどきの作家の制作の息づかいを感じ、また制作の背景をのぞき見るような感覚も覚えました。



次々と作品を拝見しながら、作家本人に話を聞いたり、質問をしたりしながら進める調査は非常に充実したものでした。これまでに日本国内の美術館等で作品を拝見する機会はありませんでしたが、今回のように一度にこれだけのボリュームの作品を見ることはかつてなく、展覧会開催に向けての大変な刺激となりました。

帰国後は写真やメモを元にデータの整理をし、作家本人や

関係各所との調整をはじめ、少しずつ準備を進めています。イケムラさんの初期から最新作までを紹介する大規模個展を開催するのは日本国内では今回が初めての機会となります。展覧会開催は2011年秋を予定していますので、どうぞお楽しみに。（EY）

1 調査を行ったローザンヌの州立美術館。2001年にイケムラさんの個展を開催している。
2 ベルリンのアトリエ内部。展覧会に向けて、展示室模型を作りプランを練っている。
3 ケルンのアトリエでは彫刻作品の調査も行った。

三重県立美術館友の会へのお誘い

友の会は三重県立美術館を支える団体として活動しています。研修旅行、美術講演会、懇談会など、会員同士の楽しい交流や美術の教養を深める催しに参加できます。

■年会費
一般会員：3,000円 入会金：500円
ペア会員：5,000円 入会金：1,000円

■特典
会員鑑賞券配付、観覧料半額、美術館に関する情報提供のほか、レストラン、ミュージアムショップのご利用にも割引があります。詳細は、三重県立美術館友の会事務局（TEL 059-227-2232）までお問い合わせください。

財団法人 三重県立美術館協力会 賛助会員へのお誘い

美術館の調査・研究事業補助、カタログなど美術資料の作成頒布、鑑賞団体への援助など、美術館活動活性化のための事業をおこなっています。協力会の主旨にご賛同いただき、賛助会員へのご加入をお願いします。

■会費
年間一口
個人：25,000円 法人：50,000円
準会員：10,000円

■特典
展覧会ならびにレセプションへの招待、各展覧会毎のカタログ贈呈や美術館活動に関する情報提供などの特典があります。詳細は三重県立美術館協力会事務局（TEL 059-227-1117）までお問い合わせください。